第１回地域作業療法研修会を開催して

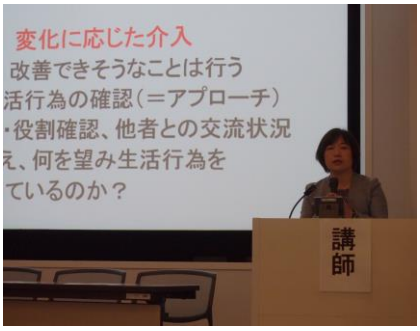
地域包括推進部　部長　有光一樹

有光氏

平成 31 年 3 月 23・24 日の 2 日間にわたり、第 1 回地域作業療法研修会～病院で働く OT も地域で働く OT も地域支援事業　みんなでやろう～をテーマに高知市文化プラザかるぽーとにて開催されました。

23 日は、実践報告Ｉとして他職種との連携・OT の専門性を考える報告について、MTDLP（生活行為向上マネジメント）の状況や MTDLP を活かした地域の連携、事業所・ケアマネジャーからみたリハビリテーション専門職への期待について報告していただきました。実践報告Ⅱでは、介護予防・総合事業における実践報告として地域ケア会議、通所型サービス C、高知市の訪問型サービス C について実践者達にそれぞれ報告していただきました。

24 日は基調講演として地域支援における OT の役割をテーマに長倉寿子氏（順心リハビリテーション病院副センター長）、特別講演として行政から作業療法士に期待することをテーマに酒井美枝氏（高知県地域福祉部高齢者福祉課課長補佐）を講師に招き講演していただきました。長倉氏の講演では、地域に関する作業療法の役割や方向性、考え方に関する内容について実体験をふまえながら話していただきました。特に認知症高齢者に関する高知県の今後の展望についてヒントをいただけたと感じました。酒井氏の講演では、行政から見た視点で急性期の病院から回復期、生活期、地域での訪問、通所サービスにおいて連動した関わりが求められていることを実感することが出来ました。地域包括ケアシステムにおいて作業療法士の専門性が充分に役立てることが認識することが出来ました。講演後は地域包括推進部の各班長とのシンポジウムを開催させていただき、各班長において来年度の構想や取り組みについて討議する時間となり、有意義な時間を過ごせたと感じます。



長倉氏

酒井氏

シンポジウム場面

この 2 日間の研修を通し、介護予防の視点から地域まで切れ目のない支援のために病院の作業療法士が実践して欲しいこと、また総合事業が開始されたことや包括的支援事業の拡大から作業療法士の地域におけるニーズは高まっている現状を学ぶことが出来ました。その現状をどのように受け止め、どのように感じ、どのように行動していくのか興味深いところです。今後は、みなさんと一緒に地域支援事業ができることを期待しています。